

令和2年度県立多賀高等学校 自己評価表

目指す学校像	(1) 校訓「最善を尽くして颯爽たれ」及び校是「師弟同行・文武不岐」の精神に則り、「知・徳・体」の調和のとれたたくましい「人間力」を育む学校		
	(2) 授業を中心に、生徒一人一人の可能性の開発に努め、進路希望の着実な実現をサポートする学校		
	(3) 特別活動を中心に、よりよい社会づくりに貢献しようとする「市民性」を培うことにより、地域や保護者から信頼される学校		
昨年度の成果○と課題△	重点項目	重点目標	達成状況
○ 四大進学者のうち「一般」受検者率(28.4%) ○ 国公立大「一般」合格者(3, 前年同値) △ 自学自習時間が著しく不足 △ 自学自習課題の積極的提供	新大学入試に (1) 対応出来る 進学実力の錬成	① 思考力・判断力・表現力を育む授業の深化を図るとともに、学習課題を積極的に提供し、家庭学習を定着させる。	B
		② 自己分析や大学・職業研究、課外や模試等をより体系的に実施し、希望進路の着実な実現を図る。	
○ HRへの帰属意識が向上 △ SNS等利用モラルの一層の向上	(2) 自治的能力と自律心の育成	③ HRや委員会における企画立案の取組等を積極的に設け、役割意識や責任感、能動的な規範意識を醸成する。	B
○ 1・2年年末部加入率各95%・94% ○ 22部中20部が県以上の出場・入選 △ 休養日の適切な設定、効率的活動	(3) 切磋琢磨の奨励と心身のケア	④ 部活動を奨励し、特技を伸長するとともに、スポーツ・文化・芸術を楽しむ心ややり抜く力、連帯感等を育む。	B
		⑤ 保護者との密な連携やスクールカウンセラーの活用等により、生徒の心理的課題に早期に対応する。	
		⑥ 希望進路実現に備える学びの時間と課外活動の時間を適切に設計できるよう指導する。	
		⑦ 学校閉庁日の設定等により勤務時間の適正化に努めるとともに、行事、課外活動を含む業務の精選、適正化を検討する。	

※H29年度3学年は7学級→H30年度は6学級

※部活動は全20部のうち県大会等があるのは20部

*評価基準：A（十分できている），B（達成できている），C（概ね達成できている），D（不十分である），E（できていない）

評価項目	具体的目標	具体的方策		評価	次年度への課題
教務	1 教育課程の着実な実施	継続 新規	①各授業時間の確保を徹底(授業交換の徹底, 考査間の各授業実施率の均等化) ②本校グランドデザインによるカリキュラム実施における各教科評価システムの顕在化。	B	・新学習指導要領の研修及び評価システムの構築 ・ICT(タブレット端末)を活用した授業についての研修 ・再試験の規程についての検討
	2 新学習指導要領に向けた研究	継続	①新たな教育課程の研究を推進(教育課程検討委員会) ②授業改善や指導と評価の一体化に関する研修会を実施(授業力向上委員会等)	B	
	3 情報管理の徹底と効率化	継続	考査問題・答案や成績を含む個人情報の管理を徹底(考査問題・答案の保管, 素点・成績等の取扱いについて毎回注意喚起)	A	
		継続	①校務支援システムの運用マニュアルの充実 ②諸帳簿の効率的な記入・点検体制を構築	B	
教図書係	4 図書館利用の促進	継続	修学旅行, 小論文対策, 「おすすめする本」等のコーナーを作成	B	・利用者を増やす具体的方策の再検討 ・検定本や受験に関わる書籍の充実
		継続	県及び県北地区の図書委員研修会へ2回以上参加	C	
教渉外係	5 PTA活動の活性化	新規	各PTA行事への教員・保護者双方の参加者数を増やす工夫【前年度より増加】	C	・withコロナにおけるPTA活動の検討
	6 各種活動ごとの内容のブラッシュアップ	新規	各係り・各学年PTAの活動内容の精選・拡充【感想・アンケート実施】	C	
生徒指導	1 問題行動の未然防止	継続	生徒との信頼関係の構築に重点を置いた, 各種生活指導の見直しの検討 容疑再評価の方法を再考, 下校指導の回数(10回⇒8回)の再考	B	・各種生活指導の見直しの検討。登下校指導の方法を再考。 ・担任と学年教育相談係を中心に情報共有のあり方を検討
	2 要支援生徒への早期対応	新規	担任と学年教育相談係を中心に情報共有のあり方を検討 SCを最大数活用する。	B	
	3 生徒や社会の実態に応じたルールを研究	継続	生活指導に関する学校内規の見直しについて検討(LGBT等の社会状況の変化に対応するため)	B	
進路指導	1 自学自習習慣の確立	継続	①週末課題・小テストの奨励 ②Classiなどの活用による家庭学習記録 ③毎日SHR終了までに, 家庭学習時間入力を実施 【指標】1学年平日1時間家庭学習者70%以上	B	・小論文作文対策の充実・模擬試験に対する指導の工夫 ・Classiの活用とICT機材の進路指導での活用
	2 大学一般受験に対応する学力の錬成	継続	長期休業中の少人数の課外指導, 平日課外実施(3年) 【指標】国公立大学5名以上合格	C	
	3 一人一人の進路希望の実現	継続	面談3回実施, 小論文指導等を夏期休業中外部講師により実施 【指標】進路希望実現率95%以上	B	
特別活動	1 生徒自ら企画立案する場の確保	継続	HR活動で5回・委員会活動・学校行事で各2回以上, 企画立案・運営の場を設定	B	・部活動・委員会統廃合の確認。新設の必要性。 ・コロナ対策をしながらの学校行事の在り方。 ・行事が行えないためキャリアパスポートの活用が不十分であった。今後, 継続するか検討する必要がある。
	2 部活動精選・専門委員会の検証	継続	①原則全員部加入制・特色選抜を含め, 部活動の在り方を検証し精選 ②統廃合した生徒会専門委員会の検証	A	
	3 部活動指導体制の研究	継続	①多様なニーズの生徒を受け入れて運営する部活動の在り方について研究 ②適切な休養を含め, 学校全体で部活動を持続できる指導体制について研究	B	
	4 キャリアパスポートの活用	新規	①LHRや行事等でキャリア形成のためにキャリアパスポートを効果的に活用する。 ②キャリアパスポートの記載をもとに生徒理解をすすめる。	C	

*評価基準：A（十分できている），B（達成できている），C（概ね達成できている），D（不十分である），E（できていない）

評価項目	具体的目標	具体的方策		評価		次年度への課題
保健厚生	1 学校環境の美化・整備	継続	ペットボトル、燃えるゴミ、弁当ゴミの分別を徹底(保健厚生部で毎月点検・確認を実施)	B	B	・弁当ゴミ(購買)の回収時間の徹底。 ・コロナウイルス感染症対策の徹底を継続。 ・歯科受診率を上げるための継続的指導。
	2 安全衛生管理の充実	新規	①新型コロナウイルス感染症対応のマニュアルを作成し感染予防に努める ②災害備蓄品の管理表作成と整備	B		
	3 生徒の健康の保持増進	新規	学校での歯科検診未受診者に対し通院受診を養護教諭による面談指導により促す【指標】通院受診率5割	C		
第一学年	1 学習習慣の確立および基礎学力の養成	新規	①国・数における朝ドリルの実施、英における授業小テストの実施、英・数・国の主要3科目における課題テストの定期的実施などにより、家庭学習を習慣化させる(生徒の理解度7割以上)。②基礎学力を養い、1年後半における対外的な成績向上を目指す(7月<11月<1月)。	A	A	・学習及び進路に関しては概ね良好なので継続したい。 ・欠席の多い生徒に対しては、さらにケアを継続的にを行い、よりよい集団作りに努める。
	2 一般受験による大学進学などの進路意識の醸成	新規	①Classiの導入及び学習記録の入力を継続させるため、担任による声かけやコメントの入力を行う。また、社会人インタビューや大学見学会を計画実施し、進路意識の高揚を図る。②類型選択のためのガイダンスを実施するとともに面談を行い、適正・能力に合わせた選択をできるよう手助けする。	A		
	3 望ましい集団活動の実践	新規	①学校行事やホームルーム活動において、自発的・自律的に運営できるようになるための手助けを行う。②年2回以上の生徒面談を実施し生徒理解に努め、全ての生徒が心身ともに健康に生活できるよう努める。	B		
第二学年	1 学習習慣の確立及び基礎学力の向上	継続	①クラッシーでの宿題(週3回出題)を計画的に実施。(生徒実施率9割以上) ②進路ホールの利用促進(平常日10人・定期考査前40人)	A	B	・個別の進路に応じた学習指導のあり方 ・進路ホールの利用を促し、進路実現の意識の高揚を図る ・模試の振り返りやデータの活用
	2 一般受験による大学進学などの進路意識の醸成	継続	①振り返りアンケート(月2回以上)を実施し、ポートフォリオへの入力を促す。 ②模擬試験(4回)・大学研究(3回)を体系的に実施。	B		
	3 望ましい集団活動の実践	継続	①LHRや行事において、自発的・自治的に運営できるように助言。 ②年2回以上の生徒面談を実施し、生徒理解に努める。	B		
第三学年	1 学力の向上	継続	課外・模擬試験に積極的に参加させる。また、漢字検定・英語検定・数学検定の合格者40名を目指す。クラッシーの動画機能を継続的に活用して、学習時間1時間以上を目指す。共通テスト受験者は演習をこなすことで応用力をつけ、実力を養成する。	B	B	・欠席生徒が多い。 ・家庭学習の習慣化。 ・一般入試合格への意識付け。 ・一般入試合格者を増やす。
	2 進路目標の実現	継続	面談を通して進路を具体化させ、模擬試験等の資料を活用して生徒の適性・能力に応じた進路指導を図り、進路決定率を95%以上とする。	B		
	3 人間関係の育成	継続	協調性・責任感を身につけ、相手を思いやる心や公正な態度を養う。長期欠席者0人とする。	C		

*評価基準：A（十分できている）、B（達成できている）、C（概ね達成できている）、D（不十分である）、E（できていない）

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度への課題
教科	国語	1 語彙・古典文法等の基礎学力の定着	継続 確認小テストの週1回実施と授業内事前・事後指導の徹底 [指標]正解率6割、定期考査での振り返り問題正解率7割	B	B	・新学習指導要領及びICT教育に対応できる授業内容の研究 ・評価基準の研究
		2 思考力・判断力・表現力の育成	新規 教材や関連するメディアの活用・読書活動を通して、言語活動を取り入れた授業を実施する。[指標]学期ごとに1回以上実施	B		
		3 漢字検定受検の推奨	新規 学習教材の提供・事前ゼミを実施する。 [指標]2級・準2級の合格者を50名以上	C		
	地歴・公民	1 基礎学力の定着	継続 ワークノートを全定期考査後に提出させる	A	B	・探求課題の適切な設定 ・AL授業の工夫 ・タブレットを使用した授業の検討
		2 興味関心を高める授業展開	継続 ①資料集や視聴覚・実物教材の活用により、時代背景がイメージしやすくする ②用語集などを積極的に活用し説明にエピソードを多く盛り込む	B		
		3 新学習指導要領への対応 ～特に歴史総合、公共	新規 ①AL型授業、記述式問題・ルーブリック評価を研究 ②歴史総合、公共(主権者・消費者教育、道徳・特別活動との連携)を研究	B		
	数学	1 基礎学力の定着	継続 ①classiによる動画配信や定期考査前課題を出す【指標】提出率100% ②遅進者に対して個別指導	B	C	・新教育課程の研究 ・ICTを利用した授業研究 ・模試データの活用 ・数学と生活との関連についての指導研究
		2 思考力・判断力・表現力の育成	継続 AL型授業を半期に5回以上実施	C		
		3 数学検定受検奨励	継続 受検者対象の課外指導を実践 【指標】受検者50名以上	C		
	理科	1 ICTを取り入れた授業の実施	新規 ①教科におけるICT研修及び授業参観の実施、②ICTを9科目全てで実施	C	C	・ICTを取り入れた実践例を科目間で共有し、研修していく。 ・生徒実験があまりできない分、代用になる取り組みを考える。
		2 体験的学習の推進	新規 生徒及び演示実験を5回以上実施	D		
		3 基礎力・応用力の育成	新規 確認テスト、家庭学習課題、課外を充実 【指標】模試偏差値50以上を5名	B		
	保健体育	1 規律遵守の徹底	継続 始業時の整列やあいさつ、準備体操を主体的に実践させ、指導・評価・助言	A	B	・コロナ対応の年間指導計画作成・授業の進め方を検討する。
		2 基礎体力の向上	継続 運動学習場面60%を目標に、運動量を確保	A		
		3 わかる保健授業の展開	継続 授業力向上のための科内研究会を月に1度実施	B		
	芸術	1 創作の喜びを実感させる授業展開	継続 生徒の実態に即し、創作の楽しさを味わうことのできる教材の選択・精選	B	B	・ICT関連の授業の研究が不十分
		2 言語活動を取り入れた鑑賞活動の充実	継続 互いの作品を鑑賞したり、制作における表現を記録・発表させることで対話的で深い学びの充実を図る	B		

*評価基準：A（十分できている）、B（達成できている）、C（概ね達成できている）、D（不十分である）、E（できていない）

評価項目		具体的目標	具体的方策		評価		次年度への課題
教科	外国語	1 大学入試に対応できる「読む力」・「聞く力」の育成	新規	授業および家庭学習課題において英文を読み、定期試験および確認テストを行う。 (英単語・内容・文法などに関する問題) 【指標】定期テストおよび確認テストで[B評価]概ね60%以上の理解度	B	B	・家庭学習課題の支援 ・聞く力の育成が不十分 ・英検2級の1次試験突破への支援
		2 英語による思考力および表現力の育成	新規	授業において「書く」・「発表・やりとり」などの活動を行い、提出作品やパフォーマンステストにより評価する。 【指標】【B評価】提出作品の評価ないしパフォーマンステストにおいて到達目標を達成	B		
		3 英検受験の奨励と資格取得者増加	拡充	準会場を設定し受験を奨励するとともに、1次試験合格者に対しては2次試験対策面接を実施する。 【指標】各学年100人以上の受験者かつ以下の数値目標の達成(既取得者含む) 1学年:準2級取得者40名以上 2学年:準2級取得者80名以上、2級取得者若干名 3学年:準2級取得者120名以上、2級取得者20名以上	C		
	家庭	1 家庭生活を充実向上するために必要な技術と態度の育成	新規	①生活的自立に向けて自分のことは自分で出来る意識と態度の育成【指標】①家事に参加している生徒の割合80%以上 ②自分の衣服の補修が出来る(まつり縫い・ボタン付け・波縫い)80%以上	B	B	・今年度効果的だった、ICTを活用した指導方法についてさらに研修を進める。コロナ対策の中で、実践可能な実習内容を考える。
		2 自己の家庭生活の課題を設定し解決方法を考え計画を立てて実践する。	新規	ホームプロジェクトを実践し、校内で発表会を行う。【指標】ホームプロジェクトの全員提出・発表	A		
	情報	1 情報化社会で必要となる態度・知識・技能の定着	継続	新テスト対応を念頭に知識、技能の定着を図るAL型授業の拡充研究(年5回以上) 【指標】「情報化社会を生き抜く知識・態度が身に付いた」者90%以上	B	B	・プログラミング教育と新課程に向けた研究
		2 個別テーマ学習の実施	継続	テーマの理解、解決、自己の考えの形成、解決法、表現方法を個別に指導 【指標】「自己の考えを的確に表現できるようになった」者85%以上	B		
		3 主体的・協働的な学びの評価の確立	継続	AL型授業の実践を通し、評価方法の確立と、評価の生徒へのフィードバックを充実する 【指標】「自ら進んで他者と協力することができるようになった」者85%以上	B		
	総合学習	1 職業や自己の進路(大学・専門学校等)に関する自らの課題を発見し、まとめて他者に伝えることにより、それらに関する知識を深めることができるようになる。	新規	①社会人インタビュー:地域の社会人を招き、希望別に講話を聴講。事前学習、実施、振り返り、発表を行う②大学見学会:希望コースごとに実施。事前学習、実施、振り返り、発表を行う。③大学模擬講義:多様な分野の大学教員を招き、希望別に講義を受講。事前学習、実施、振り返り、発表を行う。	A	B	・個別のテーマに合わせた系統的な指導の継続 ・修学旅行未実施 ・志望理由書・小論文指導を充実させる
		2 調べたことについて考え、整理してまとめ、表現できるようになる。	拡充	①地域文化研究:修学旅行で訪問する地域の言語や文化などについてテーマを設定し、自分が住んでいる地域との違いについて調べたことをまとめて発表する。更に現地を訪問した際に、その内容について検証しまとめる。	B		
		3 現代社会に柔軟に対応するための課題解決能力を高めることができる。	継続	③新聞学習:国内外で起こっている様々なことがらについての記事を読み、問題点や感じたこと、解決策などをグループで話し合い、文章にまとめる。	B		
いじめ対応	1 いじめの未然防止・早期発見	継続	①一人一人が自己効力感を得られる出番を確保し、自信を育成 ②生徒・家庭への定期的な声掛け・電話により信頼関係を構築	B	B	・心のケアを最優先した組織的な対応を徹底。 ・インターネット環境等(SNS等)に関する研修を実施	
	2 問題発生時の初期対応の徹底	継続	被害者の心のケアを最優先した組織的な対応を徹底	B			
	3 教員研修会の充実	継続	インターネット環境等(SNS等)に関する研修を実施	D			
その他	1 新学習指導要領への対応 ～カリキュラム・マネジメント	継続	①各教育活動のフローを体系化・見える化し、グランドデザインを構想 ②各教科において、プリント教材、ICT教材、考査問題の共有化を推進	A	B	・ICTを活用した授業実践 ・業務の精選と業務効率の向上	
	2 働き方改革への対応	継続	教科・特別活動、分掌部・学年、部活動において、業務精選のための見直しを実施	B			

*評価基準: A (十分できている), B (達成できている), C (概ね達成できている), D (不十分である), E (できていない)